

目次構成私案（第2版）

（中大・佐藤）

前回（9.4）の議論を受けて、目次案を作り直しました。

変更の要点は、

- ◎ 「本文」に当る部分では、性能設計につながる荷重の原則論のみを与えて、自由度を大幅に与える（その中でも、土木の中で共通認識に出来ることは、出来るだけ盛込む）。
- ◎ そのために、前回「本文」としたところを、「解説」「参考」に大幅に回した。
- ◎ 委員の「分担」も意識。

並べ直しただけ、という気もしますが、まあしかし、この構成で内容を充実させられれば、次のような社会的な要請に応えるものにはあると思われまます。

- ◎ てんでんばらばらに作られてきた「荷重規定」を糾合する driving force になる。
- ◎ Code for codewriters の体系の充実。
- ◎ 性能設計の進展への寄与。
- ◎ 環境作用、耐久性の部分への適切な位置付けを示す。
- ◎ データベース充実とリンクの呼びかけ
- ◎ 主に地震を対象に行われている「変動」「偶発」の議論を拡張。偶発作用の扱いについての独自の知見を加える。
- ◎ 荷重・作用の種類にもよるが、単に「データ処理・確率論的荷重規定」（欧州規格）の枠に留まらず、「設計法」まで含めた、新しい知見を受け入れる受け皿とも出来る（←藤野委員指摘事項）

I 編 土木における荷重・作用論

【本文】

0. 設計における荷重・作用の位置付け、国内標準類の現状 【今まで荷重はどうしてきたか】
1. 国際標準（ISO2394）における作用(荷重)
2. 建築物荷重指針の紹介
3. 性能設計体系における荷重・作用論+包括設計コードの紹介 【自ら設計荷重を決めるには】
4. 土木構造物の特徴（広範性）と、荷重・作用論の問題点（留意事項）

【構造物非依存の要素の必要性】

※4 は解説にすべきか？

【解説】

1. (本文4.に関連して) 「荷重因子」概念の導入 (←用語の妥当性は議論を要する)
2. 変動作用・偶発作用の定義と整理 【旧本文7.今問題のところ】
 - ※ 議論の分かれるところなので、論点を整理し、「どういう考えに従ってもいいが」「選択の根拠を明示せよ」という「性能設計文法」を強調。

II 編 荷重・作用各論+データベース・リンクの構築

※ あくまで統一規格を目指すのではなく、参考資料として提示。今後各種基準類に荷重・作用規定を決める際、参考にしてもらい、また情報提供してもらうことで、「基準間の有機的相互連関」の風通しをよくする。ことも目標の一つ。

1. 死荷重（やる？）
 - ・荷重因子 / ・荷重因子を利用した設計法の例 (←II編にあるべきなのか？III編かも。)
2. 平常時土圧（+水圧？）

3. 雪荷重 (やる?)
4. 温度変化の影響
5. 風作用
6. 地震作用
7. 波力および流体力
8. 衝撃作用
9. 環境作用 塩分等/化学物質環境 地盤沈下等
(火災の影響?)
(活荷重?)

- ※ 参照データベースの紹介
- ※ HP リンクの構築
- ※ 新規データの取り込み (参入を呼びかけるシステム)

III編 付属書 (Annex)・解説

- 性能と関連づけた荷重・作用論の例 (性能マトリクスなど) 【旧 I 編 6.】
- 偶発作用として扱うべき地震作用 【I 編の解説で処理すべきか】
- 動的作用の処理 【旧 I 編 8. 荷重因子を特徴付けるパラメータは?】
- 荷重・作用分類の軸 (他にもあれば…)
- データの収集と確率モデルの構築 【旧 I 編 9. 極値統計論など】
- 荷重組合せ論 【旧 I 編 10.】
- 荷重係数の試算例
- 各種「性能」について (特に使用限界状態)
- 既存建造物の維持管理のための荷重関連事項 (調査項目等)
- 「責任限度荷重」の概念の導入, 合意形成論

【注: 9.4 付提案の目次案】

I 編 土木における荷重・作用論

0. 設計における荷重・作用の位置付け, 国内標準類の現状 / 1. 国際標準 (ISO2394) における作用(荷重) / 2. 建築物荷重指針の紹介 / 3. 土木建造物の特徴 (広範性) と, 荷重・作用論の問題点 / 4. 「荷重因子」概念の導入 / 5. 性能設計体系における荷重・作用論+包括設計コードの紹介 / 6. 性能と関連づけた荷重・作用論の例 (性能マトリクスなど) / 7. 変動作用・偶発作用の定義と整理 / 8. 動的作用の処理 / (8'. 荷重・作用分類の軸が他にもあれば…) / 9. データの収集と確率モデルの構築 / 10. 荷重組合せ論

II 編 荷重・作用各論+データベース・リンクの構築

1. 死荷重 (やる?) ・荷重因子 ・荷重因子を利用した設計法の例
2. 平常時土圧 (+水圧?) / 3. 雪荷重 (やる?) / 4. 温度変化の影響 / 5. 風作用
6. 地震作用 / 7. 波力および流体力 / 8. 衝撃作用 /
9. 環境作用 塩分等/化学物質環境, 地盤沈下等
(火災の影響?) (活荷重?)

※ 参照データベースの紹介 / HP リンクの構築 / 新規データの取り込み (参入を呼びかけるシステム)

III 編 付属書 (Annex)

- 偶発作用として扱うべき地震作用
- 荷重係数の試算例
- 各種「性能」について (特に使用限界状態)
- 既存建造物の維持管理のための荷重関連事項 (調査項目等)
- 「責任限度荷重」の概念の導入, 合意形成論